

外国語活動部会

研究主題 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら
コミュニケーションを図ろうとする児童の育成

1 主題について

今年度も昨年度と同様、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成を目指し、その手立てを研究するため、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月 3日	指導案検討会
		11月13日	第2回総合研究会 授業研究会（山瀬小学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年11月13日（木）
- ・単元名 5年 Hi, friends! 1
Lesson8 I study Japanese.
- ・会 場 山瀬小学校
- ・授業者 HRT 秋田谷 大作
支援員 佐々木 圭子

① 授業者から

- ・児童は1年生の時から、学期に2回程度外国語活動を行い、慣れ親しんできた。そのため、5年生の学習への抵抗も少なかった。
- ・ほとんどの児童が「外国語活動が好き」と答えている一方、人とかかわることを苦手と感じている児童もいる。
- ・本時は、児童が意欲的に取り組むことができるようにと考えて計画をした。そこで、教科名や曜日については、前の単元や朝の会、帰りの会などを使って、事前に習熟を図った。



【児童がリーダーになってチャンツ】

② 協議

- ・話す力や聞く力が児童によく身に付いている。目を見てコミュニケーションできていた。
- ・チャンツやゲームの難易度が段階的に引き上げられていったことがよかった。
- ・児童が先生の代わりにチャンツを進めていたことは、レベルが高いことである。
- ・Finding Gameを2回やるが見通せていたら、2回目は教科を増やしたり、意地悪カードを混ぜたりしても面白い。
- ・児童にとって曜日は覚えにくいものであるが、よく覚えていた。やはり、外国語活動以外の時間にも慣れ親しませることが大切である。
- ・カードにスペリングがあることがよかった。文字を手掛かりに発音を思い出す児童も多い。
- ・本時でねらう表現を繰り返し使う学習過程が、児童の自信となっていた。

- ・早く終わったグループを待たせない工夫をしたい。
- ・振り返り際には、できるようになったことも書かせ、たくさんほめるようにしたい。
- ・教室には外国語活動の掲示が多くあり、よい雰囲気学べるよう環境が整備されていた。
- ・難しい言い回しが出てくると、聞き取って話すことに手助けを要する児童がいる。単語の習熟にじっくりと時間を掛けることや、「教師と一緒に」、「グループの中で」、「全体の前で」と形態を工夫し、段階的に支援する必要がある。

(2) テーマ研究

- ・ALTや支援員との授業の打ち合わせ資料を持ち寄り、3グループに分かれて効果的な授業の構成やアクティビティーについて情報交換を行った。

(3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 石井 むつみ）

- ・チャンツやゲームが有効であった。スピーディで無駄のない展開の中で、児童が生き生きと活動していた。児童を前に出してリードさせるなど、やらされているのではなく、やりたくなるような活動が工夫されていた。
- ・チャンツを肉声でやるメリットは、スピードや回数、音程を児童に合わせてくれることである。児童の実態を踏まえて、一番よい方法を決めてほしい。
- ・「What do you study on〜?」の曜日を入れ替えることで、何度も繰り返す必然性を生み出していた。
- ・「Hi! friends!」のカードを活用することで、時間を有効に使うことができた。教材を準備する負担の軽減のためにも、ぜひ活用してほしい。
- ・ビンゴした児童に自己表現の場があったのがよかった。ゲームを楽しみだけで終わらず、ゲームを通して学んだことを使ってコミュニケーションを楽しめる児童を育ててほしい。
- ・段階を踏んだ指導がなされている。レベルが上がっていくことを児童に実感させることで、「自分は外国語活動が得意なんだ」と思えるようにしていくことが大切である。
- ・Finding gameのカードの情報量が多く、急に難易度が上がったように感じた。ここでも、絵カードを活用するとよい。また、早く終わる子との差をなくすためには、一ペアでやり取りする時間を短くし、ペアが早くチェンジするように工夫する必要がある。
- ・Finding gameの2回目は、カードを見ないでアイコンタクトをとるなど、より実際のコミュニケーションを意識させたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・繰り返す必然性のある活動や児童がやりたくなるような活動を設定し、本時にねらう表現を繰り返し話させたことで、児童は自信をもって英語を話し、意欲的に活動することができた。
- ・段階的指導により児童に安心感や満足感を与え、英語に対する自信を育てることができた。

(2) 課題

- ・学んだことを使って、コミュニケーションを楽しむことができる児童を育てるために、相手の目を見て話させる工夫や児童がより多く関わり合う活動の工夫が必要である。